

## 新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

### “ツールという呪縛から離れた新製品開発”

— ビジネスモデルの再編と連動体制 —

(株) ジョンキエルコンサルティング 落合以臣

## Front-end loading in new product development “New product development away from the curse of tools”

- Business model reorganisation and interlocking system -  
Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

### Keywords

社会構造・経験・企業・人間・時代・柔軟性・発明・発見・テーマ・スローガン・再発見  
Social structure・Experience・Company・Human・era・Flexibility  
・Invention・Discovery・Theme・Slogan・Rediscovery

### 柔軟性の欠如と起死回生

ロシアがウクライナに仕掛けた長引く戦争と COVID-19 の間の中で、刻々と社会構造はアメーバのように変化しています。そのドラスティックな変化に何とか対応しようと、企業も人間ももがいている最中であると言っても過言ではないかもしれません。その動きの中で、何か新たな発見をして、次の時代を作って行くと言う形が、今までの様（さま）のように思えます。しかしながら、今回の2つの状況は、今まで経験してきたことと大きく異なるため、なかなか落着く場所を見出せない状況にあるのではないのでしょうか。

こうしたことに鑑みますと、過去のしがらみに捕らわれず、一旦、すべてを白紙に戻し、今から新たな世界が始まるというロマンティックな考え方に切り替えた方が、斬新なアイデアを創出することができるのではないのでしょうか。と言いましても、あまりにも白紙に戻せないほど、複雑なツールを作り、そのツールに企業も人間も縛られてきたために、いつの間にか柔軟性が失われてしまい、有事に対応できなくなってしまったと言えます。

### ツールという呪縛から離れた新製品開発

今までの思いを白紙に戻すと言っても、それをどのような方法、手段を持って、成し遂げることができるのだろうかと素朴な疑問を抱くことでしょう。少し場面は異なりますが、偉大な発見、発明は、寝る間も惜しんで、人の出来ないことをしたからノーベル賞を授与されたという言い方もあります。しかしながら、ノーベル賞を授与された人の数は、人口の何割に相当するのでしょうか。極々僅かであると言えます。今、我々人間が成すべきことは、出来るだけ身を軽くするということであると思います。身を軽くするという意味は、ツールはツールとして使い、決してツールが先にあるという考え方を持たないことです。なぜならば、新たな発想がツールによって邪魔されるからです。

自動車を例にとるならば、ガソリン車から出発し、ディーゼル車、電気自動車へと移り変わる中で、駆動の構成が変わっただけで、仕様そのものは引継がれています。確かに、性能は各段に良くなり、安全性も確保されてきたことは事実です。当分は、脱炭素化という大義名分のもとに、電気自動車の開発が進むことは誰でも知っているでしょう。つまり、自動車産業にとっては「電気自動車」というテーマが、この先10年続くということです。言い換えますと、電気自動車の開発というスローガンで一見進歩がありそうですが、駆動が電気というツールに縛られ、電気以外の発想の転換をしないという状況に陥るのではないと言えます。つまり、向こう10年間は電気自動車以外のテーマを創出しないという言い方にもなるわけです。

こうした状況と言いましても、あくまで筆者が想定した状況ですが、本来の人間のもつ柔軟性を信じ次の世界を作ろうとするのであれば、一度、ツールという呪縛から離れ、身近に存在する「もの」でもなんでも良いのですが、何が必要で何が過剰であるのかなど、冷静に見つめることができれば、自然と次の新たな世界が見えてくるのではないのでしょうか。そうすれば、企業も変わり世界も変わるのではないのでしょうか。